

①

今日は、名古屋大学の学術機関リポジトリへの登録についてお話しにうかがいました。
タイトルのとおり、現在、NAGOYA Repository では先生方の研究成果を募集中です。

②

まずは、実際の NAGOYA Repository の画面をご覧ください。

論文が登録されると、こんなふうに見ることができます。

(アニメ) 画面右下の View/Open というリンクをクリックすると、(アニメ) 論文の全文を PDF で見ることができます。

③

「リポジトリ」と先ほどから言っていますが、リポジトリを簡単に言えば「研究成果の保管庫」です。ただ保管するだけではなくて、インターネット上から自由に利用することができます。名古屋大学で作った研究成果の保管庫かつ発信拠点が、NAGOYA Repository だと考えてください。

④

NAGOYA Repository に登録すると、先生方研究者のみなさんにとって「どんないいことがあるか」ということを次にお話したいと思います。

大きく分けて 2 つあります。

1 つめは、「たくさんの人に論文を読んでもらえる」ということです。

たとえば、NAGOYA Repository に登録すると、Google などの検索エンジンからも検索することができるようになります。実際にここ最近の利用傾向を分析すると、NAGOYA Repository の訪問数のおよそ 7 割が、Google や Yahoo! といった検索エンジン経由のアクセスでした。リポジトリに登録したことによって、引用される回数が 5 倍以上に増えたという例もあります。

⑤

2 つめは、論文データの保存が楽になるということです。

NAGOYA Repository に登録していただいた研究成果は、名古屋大学が責任を持って保管します。

また、URL が変わることもありません。このため、先生方が研究室のホームページで公開されている業績リストから、半永久的に変わらないアドレスにリンクをつけることができます。

なお、この 2 つのほかに、「名古屋大学で公開している教員情報検索と連携する」という構想もありますが、実現の見込みなどは未定です。

⑥

NAGOYA Repository への登録方法は、ごく簡単です。登録したい原稿を添付して、図書館へ E-mail を送ってください。(アニメ)宛先は画面のとおりです。

⑦

さて、NAGOYA Repository に送っていただくものは、研究成果ならなんでもかまいません。具体的には、雑誌に掲載された論文や学位論文、科研費報告書などです。ほかに、学会で発表された資料や、授業の資料なども歓迎です。ファイルの形式なども特に問いません。図書館側で PDF にして、NAGOYA Repository に載せます。

ところで、雑誌に掲載された論文を送っていただくとき、気をつけていただきたいことがひとつあります。(アニメ)それは、著者最終稿を送っていただきたいということです。

⑧

「著者最終稿とは何か」ですが、図のとおりです。いわゆる「別刷り」ではありません。

図にあるように、先生方が雑誌に論文を投稿される時、何度か査読者(レフェリー)とやりとりがあるかと思います。先生方が送って、レフェリーから OK が出たものが、「著者最終稿」と呼ばれるものです。

NAGOYA Repository には、ぜひこれを送ってください。

⑨

というのは、海外の出版社の場合、9割が NAGOYA Repository などの電子コレクションへ著者最終稿などを登録することを認めています。出版社によっては、雑誌に掲載されているのと同じ、出版社版の登録を認めているところもあります。

また、日本国内の出版社や学会でもリポジトリへの登録を認めているところは数多くあります。こういった著作権に関するさまざまなことは、すべて、図書館で調べます。先生方は、共著者の許諾をとったうえで、お手元にあるデータを送ってくだされば、それで結構です。

⑩

これまで実施した説明会などで、先生方からよく質問いただいたことをいくつかご説明します。

ひとつめに、共著者の問題ですね。(アニメ)

NAGOYA Repository に登録する場合、(1)名古屋大学の学術機関リポジトリに登録すること (2)ネットワークで無料公開すること (3)保存等のために複製すること の3点を名古屋大学に無償で許諾していただくようお願いしています。これらをすべての共著者の方にも許諾してもらってから、NAGOYA Repository への登録依頼のメールを送ってください。許諾の方法ですが、口頭でかまいません。今後書かれる論文の共著者の方には、事前に「NAGOYA Repository に登録するよ」と断っておいていただければと思います。

⑪

ふたつめは、特許に関する論文の場合です。

特許に関する論文だから登録したくないということが、あるかと思います。(アニメ)

この場合、無理に登録いただく必要はありません。NAGOYA Repository には、先生方が公開してもよいとおっしゃるものだけご登録いただければ充分です。

⑫

みつつめに、「電子ジャーナルがあるのに、NAGOYA Repository にも登録するメリットは？」という点です。(アニメ)

ふだんあまり意識しないで使ってらっしゃるかと思いますが、電子ジャーナルはお金を出して契約している人だけが読めるものです。名古屋大学では、電子ジャーナルの契約にかなりたくさん予算をつぎ込んでいます。このため、ほとんどの論文が研究室にいなから PDF で見られる環境になっています。逆を言えば、それだけお金をかけないと電子ジャーナルは利用できません。NAGOYA Repository では、無料で公開しています。このため、NAGOYA Repository に登録することによって、電子ジャーナルが使えない環境の人にも読んでもらえるようになる、つまり、先生の論文を読みたくても読めなかった人にも読んでもらえるようになるというメリットがあります。

⑬

今、お手元に NAGOYA Repository に登録してもかまわない論文などがあれば、ぜひ図書館までご連絡ください。

また、今後書かれる論文については、ぜひ、著者最終稿を NAGOYA Repository に送っていただきますようご協力をお願いいたします。(画像をクリックすると実際の Web 画面が開く)

⑭

問合せ先ですが、この画面のとおりです。NAGOYA Repository についてご質問などありましたら、こちらまでお問合せください。(URL リンクあり)どうぞよろしくお願ひします。